

## 縄梯子にトライ!

## 箱根ビジターセンター

図1

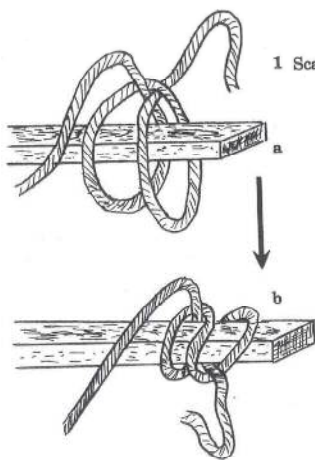


図2

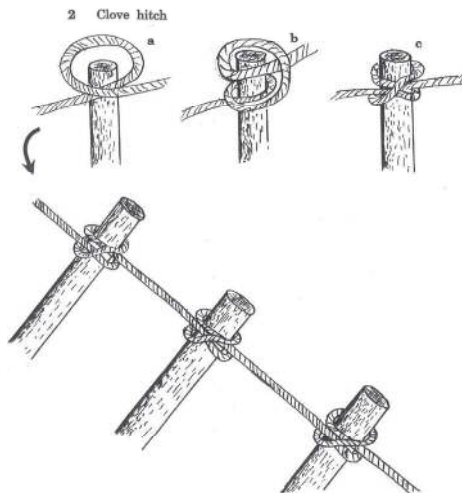
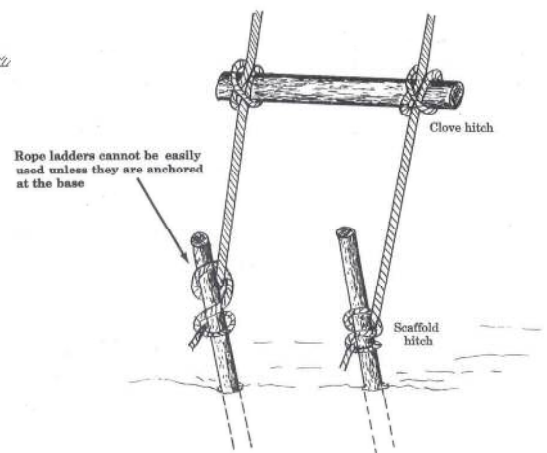


図3



森でのキャンピングや野外活動で、ちょっとしたロープワークができると活躍の場が広がりますし、友達や家族へ少し自慢できるのではないのでしょうか?

そこで今回は、縄梯子を作ってみようかと思えます。まずは、ロープを枝か梁に結び垂らし、板材を利用する場合は、図1の Scaffold Hitch と呼ばれる足場板結びで、丸太を使用する場合は図2の Clove Hitch と呼ばれる、巻き付けて止めるときの結びをします。端部をしっかりと地面に打った木杭に図3のように結んで完成です。

現在、箱根ビジターセンターでは、この縄梯子作りの体験イベントを湖尻園地にて計画中です。木登り遊びやツリーハウスを楽しんだり、親子で気軽に参加して頂けるようにしますので、今後の箱根ビジターセンターホームページにご注目下さい。(執筆:酒井)

図の出典…William Jaber(1975). *Tree houses: how to build your own tree house.* Weathervane Books New York. p.58-59

## 自然公園へでかけよう



### 環境省箱根ビジターセンター

Hakone Visitor Center  
〒250-0522 足柄下郡箱根町元箱根 164  
Tel 0460-84-9981  
<http://hakonevc.sunnyday.jp/>

### 県立秦野ビジターセンター

Hadano Visitor Center  
〒259-1304 秦野市堀山下 1513  
Tel 0463-87-9300  
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawave/>

### 県立西丹沢ビジターセンター

(旧西丹沢自然教室)  
Nishi-Tanzawa Visitor Center  
〒258-0201 足柄上郡山北町中川 867  
Tel 0465-78-3940  
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawave/>

開館日、開館時間、イベント予定等は各ビジターセンターまでお問合せください。

### 【新型コロナウイルス感染症対策に関するご注意とお願い】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各施設をご利用いただく際は、手指の消毒の徹底・マスクの着用をお願いするとともに、展示室の人数制限をさせていただく場合があります。



箱根ビジターセンター、秦野ビジターセンター、西丹沢ビジターセンターの Facebook ページ公開中！ 最新の情報をご覧ください。

## 身近な自然をみつめて

秦野ビジターセンター

秦野ビジターセンターでは、月1~2回片道1時間ほどで行くことのできる近隣に、開花や結実、鳥や虫などの生き物の様子を確認するため情報収集(山麓さんぽ)へ行き、館内展示やSNSで発信しています。

蕾がほころび、柔らかな緑の葉が顔をのぞかせる春

濃い緑に覆われ、声はしても姿の見えない鳥たちに翻弄される夏

赤や黄色に色づく木々の葉や足元で音を立てる葉を感じる秋

落葉して見通しが良くなった森に生き物たちの姿や痕跡を見つける冬

巡る季節の中で自然は二度と同じ顔を見せてはくれません。

自然の見せる一瞬一瞬の姿と、スタッフが何年も歩いて蓄えた情報をまとめた企画展「行ってみよう!山麓さんぽ」を2021年11月13日(土)から翌年1月16日(日)まで開催します。丹沢山麓の四季折々の自然をのぞいてみませんか?開館中はいつでもご覧いただけます。入館は無料です。

※新型コロナウイルス感染防止対策の一環で、混雑時には入場制限をさせて頂く場合があります。ご理解とご協力をお願いいたします。(執筆:山口)



カメラのレンズにとまられることも



色づいた木々



撮影中

## 西丹沢ビジターセンター冬のおすすめアイテム(第2弾)

西丹沢ビジターセンター

11月に入ると秋から冬の登山シーズンへと突入する西丹沢。丹沢の山々は低山ですが、朝夕の気温は氷点下になることもあり、また12月になると一年のうちでもっとも日の入りが早い時期となります。そのため、日帰り登山でもヘッドライトが必須の装備品となり、さらに寒さ対策のダウンジャケット、ニット帽、グローブなどの防寒着を携行する必要もあります。

この冬から日帰り登山であっても是非、携行していただきたいおすすめアイテムを紹介します。それは『ダウンパンツ』です。物自体は200グラム以下で、ジプロックなどで空気を抜きながら密封すれば、かさばらずに携行でき、山頂での休憩時などに着用することで体が冷えるのを防ぐことができます。

このダウンパンツが大きな役割を発揮するのが遭難時です。以前、12月に単独登山者の道迷い遭難がありました。前日に降った雪で山頂から降りる尾根を取り違えて下り、体力がなくなり遭難。気温は氷点下となり、山岳救助隊が到着した時には遭難者の体力はかなり消耗していましたが、ダウンジャケットだけではなく、ダウンパンツを着用していたことで、低体温症を回避することができました。下半身の冷えは疲れと低体温症を加速させ、疲労凍死にもつながります。遭難時に助かる条件はいくつかありますが、冬の登山にダウンパンツを携行することで、生存率が上がることは確かです。また、レインパンツをダウンパンツの上に重ね着をすれば、さらに保温力が増します。山岳救助隊も携行をすすめるアイテムの一つで、登山以外でも災害時に同様に役立ちます。

是非、この冬から登山装備品の一つとして携行していただきたいと思います。(執筆:澤田)



ダウンパンツ

編集・発行:公益財団法人 神奈川県公園協会 〒231-0027 横浜市中区扇町3-8-8関内ファーストビル6階  
TEL:045-651-0931 FAX:045-651-0932 ホームページ <http://www.kanagawa-park.or.jp/>

後援:丹沢大山自然再生委員会

神奈川県公園協会

検索